

令和6年度豆類振興事業調査研究（雑豆需要促進研究）成果概要

1 課題名

若者にとって和菓子とは
— 餡を使った菓子の「オノマトペ」を活用したコミュニケーションの検討に向けて —

2 研究者

研究代表者 宮城大学 食産業学群 准教授 滝口 沙也加
分担 昭和女子大学 食健康科学部 教授 清野 誠喜

3 成果概要

（1）研究目的

若者にとって和菓子（餡を使った菓子）とは何かについて、オノマトペによる表現に注目しながら、若者が捉える和菓子の特徴を明らかにすることを目的とする。

（2）研究方法及び手法

第1に、どのような理由や要素から和菓子に対してどういった評価を抱いているのか、因果関係の視点を取り入れながら若者の評価を明らかにする。そのため、アンケート調査では、20～30代の男女に対して「和菓子は（A）ので（B）から（C）。」という文章を自由回答で回答するよう依頼した。そして、得られたデータは＜原因＞と＜結果＞に分けて評価を構造的に把握するDEMATEL法により解析した。

第2に、若者を対象とした今後のコミュニケーションの在り方を検討するため、オノマトペ表現を用いた際の和菓子の評価を明らかにする。オノマトペは、クチコミを通じて消費者に食感情報を伝えようとする場合に有効と指摘されている。そのため、アンケート調査では「あなたが『○○』を食べた際の、味覚・食感や気持ちや状況について、自身の心に思い浮かぶ繰り返し型のオノマトペで表現してみてください。」という設問を設け、20～30代の男女に回答を依頼した。分析にはテキストマイニング手法の一種であるKeyGraghを用い、和菓子の喫食状況を表現するオノマトペの構成要素を把握するとともにそれら要素間における繋がりについても抽出した。

（3）研究成果

図1は、若者が和菓子に対してどういった評価を抱いているのかについてDEMATEL法により解析した結果図である。X軸は＜中心度＞を示し、値が大きいほど各要素との関連性が強いことを意味する。そしてY軸は影響度を示し、値が大きいほど＜原因＞、値が小さいほど＜結果＞として現れる頻度が高い項目が位置づけられる。同図より、若者の和菓子に対する評価として、「脂質が少ない」⇒「健康的」⇒「うれしい」/「食べ

たくなる」、「脂質が少ない」⇒「うれしい」、「甘さが控えめ」⇒「食べやすい」、「カロリーが低い」⇒「健康的」/「うれしい」といった繋がりが明らかになった。

一方、洋菓子に対しては、「カロリーが高い」⇒「太る」⇒「困る」/「あまり食べない」といった繋がりが評価として確認できており、和菓子に比べて否定的な内容となる。加えて、そうした否定的な印象により喫食行動へと結びつかない結果も確認された。なお、和洋折衷菓子では「どちらの要素も楽しめる」⇒「万人受け」/「美味しさ」や「珍しい」⇒「食べたくなる」という繋がりで評価が構成されており、和菓子と同様に喫食行動に結びつく評価となる。

以上、和菓子は他の菓子に比べて、食材の栄養に関する特徴が＜原因＞として位置づけられ、それが健康的という評価へ繋がり、最終的には喫食行動や嬉しさという＜結果＞へと至る評価が抱かれていることが特徴となっている。

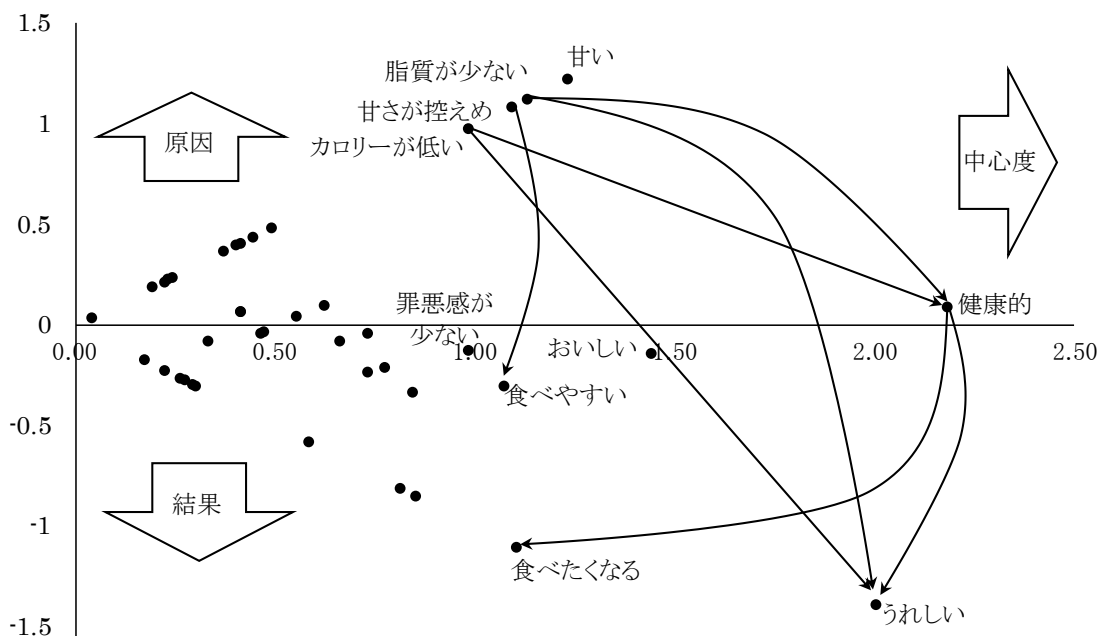


図1 若者が抱く和菓子に対する評価

資料：アンケート調査結果をふまえて筆者作成。

注：中心度 1.0 以上の項目を表示している。

次に、和菓子の喫食状況を表現するオノマトペについて、頻出頻度が高い語に注目しそれがどういった語と結びついているのかを他の菓子と比較しながら分析した。表1は、それぞれの菓子について得られた回答データを KeyGragh により解析し、回答頻度が高い語同士の単語の塊を抜粋したものである。

和菓子については、「デロデローボリボリーフンフン（大福）」や「ゴロゴローパクパクダラダラ（どら焼き）」といった食材の状態や食べた時の食感に関する語が結びつき、喫食時の状況が表現される結果となった。

それに対し、洋菓子では「ハピハピーフワフワーアマアマ（ケーキ）」や、和洋折衷菓子では「シアシアードキドキーノウノウーマンマンナーナメナメ（クリームどら焼き）」といった語の塊で喫食時の状況が表現される。

このように、状態を表す内容のオノマトペが中心となって表現される和菓子に比べて、洋菓子や和洋折衷菓子では楽しさや幸福感を表す内容のオノマトペが食材や食感といった菓子の状態を表すオノマトペと結びつき表現されることが特徴となっている。

表 1 若者におけるオノマトペ表現による菓子の評価

和菓子	大福	デロデローポリポリーフンフン、ネチュネチュー <u>ウレウレ</u> ーモチャモチャーキャシャキャシャ
	どら焼き	ゴロゴローバクバクーダラダラ、ウマウマーアマアマーフワフワ
洋菓子	ケーキ	<u>ハピハピー</u> フワフワーアマアマ、アムアムー <u>ヤタヤターニヤニヤ</u>
和洋折衷菓子	クリーム大福	パサパサーフムフムートロトロ、 <u>ワイワイ</u> ーモチリモチリートロリトロリ、リョクリョクフオスフオスーチョビチョビーモスモス、カワカワーアラアラーオイオイーホウホウ、フワフワー <u>ワクワク</u> ーモチモチーアマアマーウマウマ、テンテンーユキュキーウエウエーモンモン、 <u>ウフウフ</u> ーブクブクー <u>ニマニマ</u> ームチムチーモフモフ
	クリームどら焼き	<u>シアシアードキドキー</u> ノウノウーマンマンナーナメナメ、キョチキョチーニリニリーミョヌミョヌー <u>ワヤワヤ</u> 、 <u>ワクワク</u> ー <u>ハピハピー</u> ーアマアマーウマウマートロトロフワフワ、フンフンシッシーハフハフーズシズシーポフポフ

資料：アンケート調査結果をふまえて筆者作成。

注1：同表は、KeyGraph の分析結果をふまえ、頻出頻度が高く、同一回答内で共通して回答されている頻度が高い単語同士の結びつきが確認された塊を抜粋しまとめたものである。

注2：ポジティブな心情として読み取れるオノマトペを太文字・下線で表現している。

（4）今後の課題及び対応

若者は和菓子を栄養面や健康という理由から評価はしている。しかし、他の菓子で確認された喫食時の楽しさや幸福感を表す語と菓子の状態を表す語との結びつきが比較的弱いことから、ポジティブな心情を抱く食シーンの状況においては和菓子の評価・認識していない様子がうかがえる。

今後は、楽しさや幸福感といった状況下で喫食される和菓子の食シーンを伝えるコミュニケーションが必要となる。その際、和菓子を喫食するきっかけづくりとして楽しさが感じられる状況下で喫食されている和洋折衷菓子を用い、楽しい食シーンを伝えるようなコミュニケーションが重要となると考えられる。なお、そうした食シーンにおいてどういったオノマトペが効果的かどうかについての分析は残された課題となる。